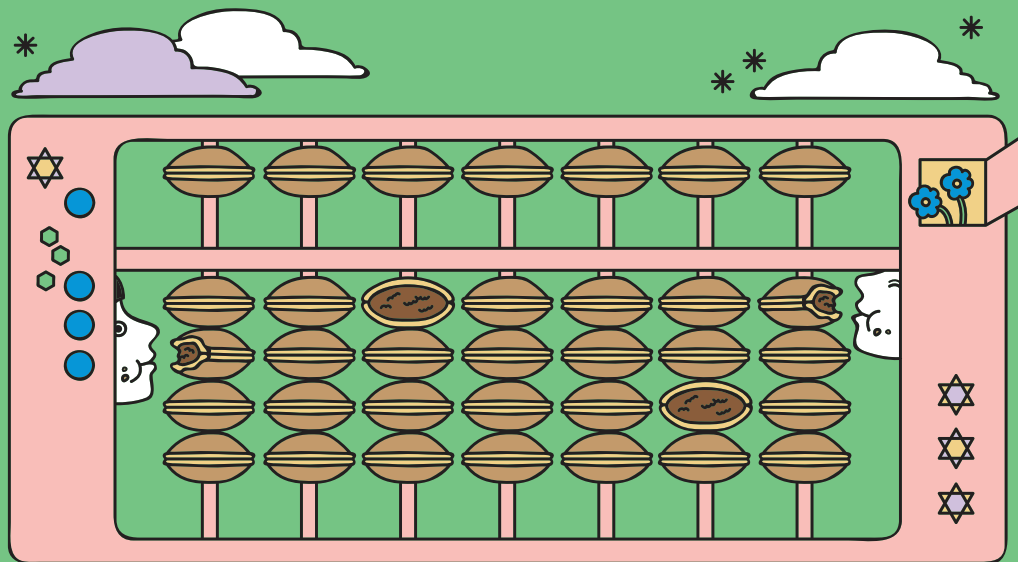


TAKE  
FREE  
第14号  
2019年4月



# 神宮前二丁目新聞

Jingumae 2chome Shimibun

じん に  
神二で暮らす、働く、遊ぶ。

地元メンバーが届ける、超地域限定フリーマガジン。

# 4月10日、 神宮前二丁目の 200世帯が 55分間停電した

文=松村小悠夏 撮影=小久保由美、沢辺均

4月10日(水)午前10時半。いつもより遅めに入社した私は、神二のマンション「ピラ・セレーナ」にある編集部へ一歩入るなり暗闇に包まれた。えっ…? 今日、日曜日だっけ? きびすを返そうかと思ったところで、あい変わらずの暗闇の中から編集部員の声があった。「停電だよ」。

聞けば10時頃からこの状態だという。10時40分、外に見に行ったらスタッフが「東京電力の車が来て作業してるよ」と言った。そして10時56分、照明が一斉にパッとともる。人間は歓声をあげ、社内の電気製品一同は「ウーーン」と通電を告げた。

それにしても、なぜ停電が起こったのか? 例えばどこかの会社が「たくさんの電気製品

を一度に動かしてしまった」とかが理由だったら、自分たちだってうっかり停電させてしまう可能性があるではないか。謎を解明するため、東京電力に電話をかけた。

取材に応じてくれたのは、東京電力パワーグリッド渋谷支社の細井克宣さん。ずばり、今回の停電の理由とは?

「神宮前二丁目の、お客様敷地内での掘削工事中に、地中の電気ケーブルが傷ついたことが原因のようです」

同じ神二でも、停電しなかったエリアもあるようですが…。

「ケーブルは網の目のように張り巡らされていますから、違うケーブルから電気をとっているエリアは停電しません。ちなみに今回、

1~2分間だけ停電したところが400世帯ほどあったはずですよ」

えっ? それはなぜですか?

「電気を復旧させるには変電所に近いエリアから順番に電気を流して、停電の原因エリアを絞り込んでいくんです。突き止められたら、問題のないエリアにはすぐに電気を送ります。ここまですぐに復旧したい1~2分なんですよ」

なるほど。いやあ、ここまでの広範囲にわたる停電は、ちょっと電気を使いすぎた程度では起きないことがわかって、安心安心。ちなみに今回頼りになったのが、スタッフがダウンロードした東京電力のアプリ「TEPCO速報」。停電状況や復旧のめどがわかり、暗闇の中、人の心を明るく照らしてくれました。

停電時の、編集部内の様子。窓際のわずかな光を頼りに原稿を書く者、スマホで停電情報を調べる者、パソコンが使えないため、なす術なく早めの昼食にありつく者も。



現場に到着した、東京電力パワーグリッドの緊急車両。



停電時、スタッフが見ていた「TEPCO速報」の画面。

神二のキーパーソンに、町との関わりや自身の生い立ちを語ってもらうこのコーナー。

第2回の登場者は、神宮前二丁目エリアの住民が加盟する「千駄ヶ谷二丁目町会」の会長を8年間務めた澤俊一さん。

今からちょうど60年前に婿入りしてから、神二の町でどのように過ごしてきたかを聞いた。

[神二でロングインタビュー vol.2]

# 町会長になった きっかけは友人との 「ノリ」だった!?

## 澤俊一さん

澤俊一さん  
さわ・としかず 1938年生まれ。SAWAビル（神宮前2-21-15）オーナー。結婚後、「大経師 鶴泉堂」を継ぐ。2008年から2016年まで千駄ヶ谷二丁目町会会長を務める。

## 丸ノ内線の運転士から「<sup>きょうしや</sup>経師屋」へ

ずっと伸びた背筋、よく通る声、朗らかな笑顔。御年81歳とは思えない澤さんは、婿入り先の家業「経師屋」を継いだ、職人さんだ。経師屋とは障子やふすまの枠組みを作ったり、和紙を貼ったりする職人のこと。「このあたりは昔、職人の町でね。神二をぐるっと一周するだけで家が建つくらい、いろいろな職種がそろってたの。畳屋、左官屋、瓦屋もいたな」

群馬県生まれの澤さんは、近所の富岡製糸

場を遊び場にして育った。18歳で上京し、神二にやって来たのは21歳のとき。新しい下宿先を探していたら、同じく上京した友人から「俺の下宿先に部屋の空きがあるようだから、お前来たか」と誘われたのだ。その下宿先というのが、「<sup>だいきょうし かくせんどう</sup>大経師 鶴泉堂」を営む澤家の2階。やがてそこのお嬢さんと結婚した。しかしすぐ経師屋に弟子入りしたわけではない。

「子どもの頃から機関車が好きでね。27歳まで丸ノ内線の運転士を続けて、経師屋に弟子入りしたのは28歳から」

運転士と経師屋。まるで違う職業だが、転



澤さんが神二に来た1959（昭和34）年ごろと、現在の同じ場所。「大経師 鶴泉堂」の左隣は傘屋、右隣は石材置き場で、この一帯は職人の町だった。経師屋の建物は、澤さんがオーナーを務める「SAWAビル」となったが、場所は今も変わっていない。



職への戸惑いはなかったのだろうか。

「運転士をやってるころから経師屋の手伝いもしてたから、戸惑うてことはなかったね。いや、働き者だったってわけじゃないよ。運転士は長時間勤務できないから、自分の時間がわりとあるの。帰ってから遊び半分で経師屋の手伝いをすると、まだ弟子入り前だから、義父が『ありがとよ』ってお駄賃をくれて。それを持って新宿のトリスパーによく飲みに行ってたな」

### 町会長として渋谷区の清掃事務所と交渉

澤さんのお義父さんは、千駄ヶ谷二丁目町会の会長を24年間務めたという。その手伝いをしてきた澤さんも、自身が70歳のときに町会長に。これも後を継ぐ思いで？と聞くと、「ノリです。単なる、ノリ」と澤さん。

「千駄ヶ谷にあった銭湯『もみじ湯』の店主と『俺たち、70歳になったら町会長やろうぜ』と話しててね。そいつがお隣の千駄ヶ谷三丁目町会の会長を本当にやっちゃったものだから、俺もやらざるを得なくなってきた」

こう言って笑う澤さんだが、具体的な施策をいくつも進めてきた。そのひとつが、住民

のごみの回収方法について清掃局と交渉をしたことだ。

「町会長の仕事でいちばん大変なのはごみ問題なんです。ごみ置き場は町会長の許可がないと増やせないし、移動もできない。だから、町の人はみんな町会長のところへ相談しにくるんだよね」

狭い路地が多い神二界限では、特にごみ問題が表面化しやすい。置き場が少ないとあふれたごみで道がふさがれてしまうし、かといって「うちの前をごみ置き場にしていよ」というところはなかなかないから、気軽に増やすこともできない。

「それで、狭い路地では各家庭の玄関先にごみを置いて収集車で回収してもらえるようにしたの。家を一軒一軒回って『今度から個別回収にします』と説明してから、渋谷区の清掃事務所をお願いをしに行った」

2016年まで8年間、町会長を務めた澤さん。辞めるときは引き止める声も多かったのでは？「こういうのは同じ人間がずっとやっちゃいけないと思うんだ。マンネリ化して同じことしかできなくなる。それを避けるいちばんの近道は人が変わること。新しい人が新しいことをやっていかないとね」

### 地元のお祭りで経師屋の腕を振るう

町会長を辞めた後も神二の町やご近所さんとの関わりは続いており、経師屋の仕事も年に数回受けている。9月の鳩森八幡神社のお祭りで境内にずらりと並ぶ40基ほどの行灯の紙は毎年、すべて澤さんが貼っていて、3日間かけて仕上げるそうだ。

先代のお義父さんの教えで、今も心に残っていることは？と聞くと、「昔の職人は教えたりしないの。仕上がりを見て『これ、だめよ』って言うだけだね」と、澤さん。

「正しい手順どおりにやればできるはず、なぜできないかは見て覚えろってね。『順序が違ったって、仕上がりが同じならいいじゃない』と言ったことがあるんだけど、『いや、違うんだ』って。順序通りやったほうが不思議ときれいに簡単に仕上がる。職人に限らずどんな仕事でもそういう一面はあるもんだよね」

苦勞したことや努力したことを尋ねても、「俺なんか飽きっぱいだけの人間だから」と笑ってかわす澤さん。昔気質の職人さんの姿を見た気がした。



上／経師屋の仕事袋。障子やふすまに紙を貼るときの刷毛、へら、ローラーなどが入っており、これを腰に巻いて仕事をする。

下／「大経師 鶴泉」の看板。作業場である1階のガレージ横に今も掛かっている。

神二の子どもたち

# 寺子屋 鹿鳴塾

terakoya ROKUMEIJYUKU

10分計ります！  
用意して一、始め！

マンションの一室で  
子どもたちが読み・書き・そろばん

神宮前二丁目に寺子屋があるのをご存知だろうか？ その名も、「寺子屋 鹿鳴塾<sup>ろくめいじゅく</sup>」。読み書き・そろばんを中心に、学校の勉強のサポートも行う個人塾だ。

千原公園のすぐ近くにあるクリーム色の外壁のマンション「鹿鳴館ハイツ」を訪れると、塾長の鈴木玲子先生が出迎えてくれた。習字とそろばんのお稽古を見学したが、子どもたちはみんな、私より字がうまく、計算が早い。そろばんでは、この春小学1年生になる子どもたちが3桁の計算をしていて驚いた。

友達相手に始めた個人塾が  
のべ100名の寺子屋に

鹿鳴塾が生まれたきっかけは、鈴木先生の大学時代にさかのぼる。そろばんと習字の個人塾を経営していた両親の影響もあり、教師

集中。。。



を目指していたという鈴木先生。だが、中学校での教育実習を体験して、自分に学校の先生は向いていないと思ったという。「学校だと、生徒も先生もお互いを選べないから」。

その後、システムエンジニアの職に就き、結婚、出産。娘のママ友の希望で、自宅でそろばんを教え始めた。これが鹿鳴塾のはじまりだ。当初は「鈴木塾」だったが、生徒数が増えたため教室となる場所を探していたところ、神二の鹿鳴館ハイツに出会い、名前を変えた。「私、踊りが好きだから『鹿鳴館』っていいなと思ったの」。さらに、地域に根ざしたあたたかみのある雰囲気を目指していたため、「寺子屋」とつけた。

神二でオープンして、現在10年目。口コミで生徒が増え、今では大人も含め約100名ほど在籍している。近所の園児や小学生が中心だが、電車やバスで通う生徒もいるという。昨年、要望を受けて新宿校も開校した。

**あきらめなければ必ず成果は出る！**  
学びのおもしろさ、達成感を伝えたい

入塾希望者には、必ず事前に体験してもらうようにしている、と鈴木先生。教室の雰囲気や先生との相性を考えてもらいたいからだ。

お稽古中は、子ども一人ひとりに合わせた指導を心がけている。

「たとえ飲み込みがゆっくりで、時間がかかる子どもでも、あきらめずに取り組めば必ず成果は出るということを伝えたいですね。そんな子が検定試験に合格したときのうれしさってありませんよ」。子どもの成長を間近で見られるのが何より楽しい、と明るく笑う先生に、私も習字とそろばんを教えてもらおうかな…と思った。

#### DATA

##### 寺子屋 鹿鳴塾

学びの原点「読み・書き・そろばん」に重点を置いた寺子屋式学習塾。育脳トレーニングや算数・数学・英語の指導も行う。幼児部・小学部・中学部の他、大人を対象にした成人部もある。

住所▶神宮前2-18-20鹿鳴館ハイツ原宿202

電話▶03-6804-1084

Web▶<https://rokumeijyuku.net/>

無料体験  
受け付け中です

鈴木先生



習字のお稽古では、学年に応じた課題が毎月出され、毛筆と硬筆を練習する。「習字やそろばんは集中力がつきますよ」と先生が言う通り、みんな静かに集中していた。

神二のお仕事徹底解剖 vol.1

# クリーニング シマダ

cleaning SHIMADA

受付から奥は謎に包まれている  
クリーニング屋さんのお仕事をのぞいてみたい！  
そんなわがままを聞いてくれたのは、  
来年、創業70年を迎える「クリーニングシマダ」。  
三代目店主の島田一弘さんと  
ふたりの看板娘に仕事の流れを聞いた。



[STEP 1]

汚れや素材を見極める

## 受付

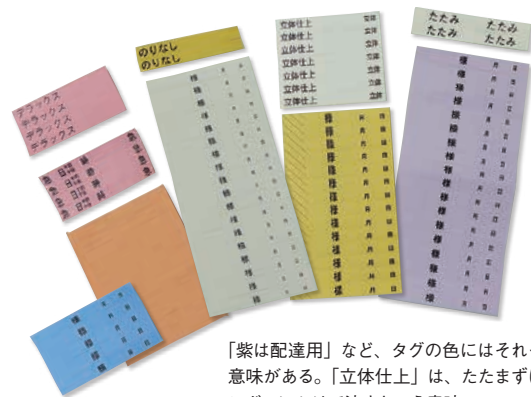
「衣類を預かるだけ」と思ったら  
大間違い！ その後の作業に  
つながる受付の役割とは？

### 色やつき方から 汚れの原因を推理

衣類を預かったら、まずは  
傷やシミ、ほつれ、ボタン外  
れがないか確認。この確認作  
業は受付のふたりが担当する  
ほか、洗う前にも行うから、  
三重チェック体制になってい  
る。汚れがあればお客さんに  
思い当たる原因を聞くが、知

らない間についていたという  
ケースも多いそう。そんなと  
きは、シミの色やつき方、服  
の素材から、汚れの原因を推  
理する。

預かった衣類の洗いを判断  
するのも、受付の仕事だ。  
洗濯表示が判断材料となるた  
め、「できれば服のタグは切ら  
ないでね」とのこと。



衣類につけるタグは預かっ  
たらすぐつける。そのまま洗  
うので、タグも「シミあり」  
など書くペンも、水や洗剤  
で溶けない専用のもの。



「紫は配達用」など、タグの色にはそれぞれ  
意味がある。「立体仕上」は、ただまぎにハ  
ンガーにかけて渡すという意味。

### SHOP DATA

#### クリーニングシマダ

住所▶神宮前2-13-6 電話番号▶03-3401-5902

営業時間▶8時半～19時（水のみ21時まで）

定休日▶日、祝 【▶お店の地図は裏表紙へ】

受付担当は、店主・  
一弘さんのお母さ  
んと奥さん。



[STEP 2]

ティッシュが破れない!?

# 洗い

お店だからこそできる  
ドライクリーニングでの  
洗濯を拝見。

## 着物や飾りのある服も 洗える「ドライ」

家庭用洗濯機の「ドライコース」とは、ソフトな水洗いのこと。一方、クリーニング屋さんの「ドライクリーニング」は、基本的に水は使わず精製した有機溶剤で衣類を洗う。同じ「ドライ」という

名前だからまぎらわしいけれど、両者は全然違うのだ。

ドライクリーニングのメリットは、衣類の繊維が変化しづらいこと。型崩れせず汚れを落とせるから、着物やビーズなどの飾りがついた服に向いている。なんとティッシュを1枚だけ洗ってもボロボロにならないからびっくり!

ドライクリーニングで洗ってみました!



ドライクリーニングの洗濯機にティッシュを入れる。



有機溶剤で1分ほど洗う。ぐるぐる回っていて、破れそうだけど…?



一弘さんの横にあるのは水洗いの洗濯機。衣類の色や素材に応じて3種類の洗剤を使い分けている。



[STEP 3]

職人技の見せどころ

# アイロン

2台のアイロンとプレス機を使い分けて作業。  
家でまねできる裏技も!

## アイロン台の下に隠れた バキュームが大活躍

アイロン台の下には衣類を吸いつかせるバキュームが隠れている。実はこれがきれいな仕上がりの秘訣だ。衣類を台に密着させることでアイロン

がかけやすくなると同時に、バキュームが熱を吸って冷ますので、衣類がきれいな形のまま固定される。家庭でアイロンをかけるときは、このバキューム代わりに衣類の上からフーツと息を吹くだけでも仕上がりに違いが出るそう。



蒸気と電気の熱でかける電蒸アイロン。白いアイロン台の下にはバキュームがついている。

編集部上野、「袋かけ」体験!



完成!

アイロン後、完全に蒸気が飛んでから行う袋かけ。機械にセットされたビニールを服の丈に合わせて引っ張り、ボタンを押してカットすれば完成。



蒸気の熱だけでかける生蒸アイロン。



ズボンなどに使うプレス機。



# 神宮前二丁目新聞を一緒に作りませんか？

神宮前二丁目で暮らす人・  
働く人・遊ぶ人なら誰でもOK!

情報提供・企画参加

## インタビューコーナーの 登壇者募集

ご自身の半生や、神二の街との関わりを語ってくれるかたを募集中。「この人に話を聞くとおもしろいと思う」という他薦もお待ちしています!

## 「子ども企画」のネタ求む

クラブ活動や習い事など、子どもたちの活動を紹介する「子ども企画」

を連載中。「うちに取材、来てもいいよ」というかた、ご連絡ください。

## 「回覧板」への掲載

「服譲ります」「期間限定メニュー始めました」など神二の人に知らせたいことをご応募ください。掲載料は無料です。

●「回覧板」今後の発行予定

5/20(月)発行号▶応募締切5/6(月)

6/20(木)発行号▶応募締切6/2(日)

店頭配布

神宮前二丁目新聞を置いてもらえるお店を募集中。希望のかたには写真の配布スタンドもお渡します。



## 次号のお知らせ

「神宮前二丁目新聞」第15号は  
7月20日(土)に発行予定!

## 応募先

電話▶ 03-3478-1774

メール▶ jin2shinbun@pot.co.jp

WEBサイトに応募フォームを設けています

神宮前二丁目新聞 検索

FAX▶ 03-3402-5558

WEB▶ http://jin2news.net

トップ▶応募



## 編集後記

前号の裏表紙で、神二新聞編集部が運気アップのコツを教える占い師を募集したところ、「占い師ではないけど、趣味で風水の勉強をしています」と連絡をくださったかたがいました。神二在住のくばきょうこさんです。「編集室の中心から見た東北もしくは南西に、水場や汚れている場所はないですか?そこを徹底的にキレイにしたら、元気のパワーを呼び込むために、東に音の出る物や赤色の物を置いてください」とのアドバイスを受け、赤い車のおもちゃを置いてみたところ、今号は誰も体調不良にならずに完成!編集部の運気、ちょっとずつ上がってきたかもしれません。(松村)



## 神宮前二丁目新聞 第14号

2019年4月23日発行 8,000部 両面4Cマットコート90kg

発行▶ポット出版 表紙イラスト▶市村ゆり

制作協力▶認定NPO法人グッド・エイジング・エールズ

問い合わせ先 電話▶03-3478-1774 住所▶神宮前2-33-18 ビラ・セレーナ303号室

メールアドレス▶jin2shinbun@pot.co.jp Web▶http://jin2news.net/

## MAP 誌面に登場したお店・会社



外苑西通り

100m